

龍神祝詞

たかあまはらにましまして てんとちにみはたらきをあらわしたまうりゆうおうは
高天原に坐し坐して 天と地に御働きを現し給う龍王は
だいうちゆうこんげんの みおやのみつかいにして いっさいをうみ
大宇宙根元の 御祖の御使いにして 一切を産み
いっさいをそだて

一切を育て

よろずのものをごしはいあらせたまう おうじんなれば
萬物を御支配あらせ給う 王神なれば

ひふみよいむなやことの
一二三四五六七八九十の

とくさのみたからを おのがすがたとへんじたまいて
十種の御寶を 己がすがたと変じ給いて

じざいじゆうに てんかいちかいじんかいを おさめたまう
自在自由に 天界地界人界を 治め給う

りゆうおうじんなるを とうとみうやまいて
龍王神なるを 尊み敬いて

まことのむねひとすじに みつかえもうすことのよしを
眞の六根一筋に 御仕え申すことの由を

うけひきたまいて
受け引き給いて

おろかなるこころのかずかずを いましめたまいて
愚かなる心の数々を 戒め給いて

いっさいしゅじょうのつみけがれのころもを ぬぎさらしめたまいて
一切衆生の罪穢れの衣を 脱ぎさらしめ給いて

よろずのもの やまいわざわいをも たちどころにはらいきよめたまい
萬物の 病災をも 立所に祓い清め給い

よろずせかいもみおやのもとにおさめせしめたまへと
萬世界も御親のもとに治めしせめ給へと

こいねがいたてまつることのよしをきこしめして
祈願奉ることの由をきこしめして

むねのうちにねんじもおす だいがんをじようじゆなさしめたまへと
六根の内に念じ申す 大願を成就なさしめ給へと

かしこみかしこみもおす
恐み恐み白す